

## 市民協働事業 相互評価シート

### 1 市民協働事業の概要

事業名称	横浜市自治会町内会新しい活動スタイル応援事業		
事業の実施者	事業者	特定非営利活動法人 I Love つづき	
	行政	横浜市市民局地域活動推進課	
事業の目的	新型コロナウイルス感染症の影響が続く状況下においても、地域の絆をつなぎ、自治会町内会活動を継続・活性化していくため、ICTを活用した新しい活動スタイルを支援する。		
事業の内容	ICTを活用した会議、情報伝達等を体験する講座の実施、相談対応 等		
役割及び責任 分担等	必須項目	事業者の役割	横浜市の役割
	オンライン会議、LINEその他のツールを使った情報伝達・共有等の体験	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講座の企画及び実施</li> <li>2 参加団体との連絡調整</li> <li>3 会場設営、運営サポート</li> <li>4 会議ソフトやLINE等の活用方法紹介</li> <li>5 上記に係る相談及び講座資料の配布</li> <li>6 参加者アンケートの実施、集計、実施報告書の作成</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 事業広報、事業者提案とりまとめ</li> <li>2 地区連合町内会との連絡調整</li> <li>3 参加団体募集、とりまとめ</li> <li>4 講座の企画・実施協力</li> <li>5 アンケート全体分析</li> </ol>
	ICT活用に関連した相談対応	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 相談会の企画及び実施</li> <li>2 電話・メール等による質問、相談対応</li> <li>3 相談対応記録の作成</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地区連合町内会との連絡調整</li> <li>2 相談会の企画・実施協力</li> <li>3 相談事例のまとめ、紹介</li> </ol>
	今後のICT活用に向けた提案	ICT活用に向けての課題整理、活用手法の提案	ICT活用に関する今後の支援策の検討
実施期間	令和2年10月12日～令和4年1月18日		

記入日	2022	年	1	月	18	日
・団体等名：	特定非営利活動法人 I Love つづき					
・記入責任者氏名	川本智子					
連絡先：	045-306-9004					
・部署名：	横浜市市民局地域活動推進課					
・記入責任者氏名	木村 剛・大和田 晶子					
連絡先：	045-671-3624					

## 2 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないます。

### ◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

### ①事業計画段階

	事業者	横浜市
この事業の目的やミッションを互いに共有し、理解することができたか。	A	A

### ②事業実施段階

	事業者	横浜市
互いの役割を自覚し、強みを生かしながら、積極的に取り組むことができたか。	A	A
参加者のニーズや事業の進捗に応じて、臨機応変に対応しながら取り組むことができたか。	A	A

### ③ふりかえり段階

	事業者	横浜市
参加者が満足を得られたかどうかについて、互いに結果を共有し、確認できたか。	A	A
事業目的を達成するため、互いが役割を果たし、期待された事業成果を得られることができたか。	A	A

### 3 事業評価相互検証シート

「2 事業実施プロセス相互チェックシート」の結果をもとに相互に本シートを作成し、まとめます。

<b>事業の計画づくり</b> (事業の計画段階で、お互いの認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはありますか。)
<b>【共有できたことや認識に違いがあったこと】</b> 自治会町内会の方たちはコロナ禍でありながら、なんとか活動を続けていきたいとがんばっている。そのようなところのお役に立てたことでこの事業の意義を感じた。
<b>【今後改善が必要と思われること】</b> 説明会がどのような形で連長さんから担当者まで伝わったのか。担当の方が会員へのスマホ講座と勘違いし、広報しているような場面もあった。参加募集チラシを横浜市全域でテンプレート化する等があればよりよいのではないかと。また、今回の事業者が見つかったテキストはお互いの事業者の中で共有できるとよい。今後はそれも委託内容にいれてはどうか。
<b>事業実施</b> (協働して事業を実施した結果、お互いの認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
<b>【共有できたことや認識に違いがあったこと】</b> スマホの種類を把握していない方が多すぎた。最初の1回はスマホの基本操作講座をやってもよかったのかもしれない。LINEをインストールできないらしくスマホなども多く、参加者のデバイスの違いに悩まされた。
<b>【今後改善が必要と思われること】</b> 今回よい試みができたと思う。講座を行った方から民生委員の講座ができないかなど問合せがあったが予算がなく、なかなか実施に至らなかった。年度で終わるのではなく、自治会町内会のICTサポート(たとえばメールリストやホームページなど継続できるしくみ)を行政がすべきではないかと。Zoom講座などは、時間内に短時間でも横浜市役所と繋いでみる、など市役所職員とも数分でもつながることができるとよい試みがあればよりよい。
<b>事業の成果</b> (協働して事業を実施した結果、得られた成果はありますか。また、事業全体を通して、当初期待された事業効果は得られましたか)
市役所の地域課題に対して、委託側である私たちNPOが取り組むという図で、あまり「協働」しているという意識がもてなかった。事業としてはよい事業なので、気軽に連絡がとれ、地域の事情のわかる区単位に落とし込んでいくのもよいのではないかと。最後に団体や行政と意見交換でできたことはよかった。
<b>自由記入欄</b>
地元密着のNPOであったので、できれば都筑区やその周辺のサポートを増やし、今後の繋がりをつけていきたい。